

令和元年度 長野県総合教育センター評議員会 開催要項

1 期日・会場 令和元年9月24日(火) 第6・7研修室

2 日程

- (1) 研修講座・生徒実習・施設の視察見学
- (2) 評議員会〔第6・7研修室〕

開 会

① 座長選出

② 説明・報告

ア 令和元年度長野県総合教育センター 組織・機構 事業の重点

イ 研修事業

- ・長野県教員育成指標に基づいた研修
- ・平成30～令和元年度 研修講座実施状況
- ・令和元年度 注目講座の概要
- ・指定研修の概要
- ・研修講座のふりかえり（受講者アンケート）集計結果
- ・先端技術研修の概要
- ・教職員研修会サポート

ウ 生徒実習事業

- ・生徒実習事業の概要

エ 研究調査事業

- ・研究調査事業の概要

オ 教育情報事業

- ・ホームページのコンテンツ（学びの広場）
- ・長野県視聴覚ライブラリー

カ 教育相談事業

- ・教育相談の概要

③ 評 議

- ・長野県総合教育センターの事業について
- ・長野県総合教育センターに期待すること
- ・その他

閉 会

3 出席評議員（敬称略）

芳原 慶子	長野県小学校長会	会長
西澤 道生	長野県中学校長会	会長
杉村 修一	長野県高等学校長会	副会長
佐藤 幸三	長野県特別支援学校長会	中信地区代表
大内 勝	長野県国公立幼稚園長会	会長
小川 節	長野県PTA連合会	副会長
金子 智久	長野県高等学校PTA連合会	副会長
坂口 昌夫	長野県市町村教育委員会連絡協議会	会長
赤津 勝広	塩尻市中央公民館	館長
栗倉 梅代	塩尻商工会議所 女性会	会長
峯村 均	信濃教育会教育研究所	部長
伊藤 かおる	株式会社コミュニケーションズ・アイ	代表取締役社長
高山 雪	松本大学教育学部教職センター	講師

令和元年度 長野県総合教育センター評議員会 評議要旨

(令和元年9月24日実施)

次のような点について、ご質問やご意見をいただきました。
今後の事業運営および研修講座づくりに反映させて参ります。

○研修事業全般について

- ・研修講座案内には教員育成指標が掲載されているが、非常に重要な理念が分かりやすく示されているので、すべての先生が目にして研修を考えられるようにした方が良いのではないか。
(回答) 育成指標は県教育委員会が策定しており Web ページにアップされているが、現場での活用はタイムラグがある。またセンターの講座構築も育成指標に合わせた形で進めている。育成指標そのものはチェックシートもついている膨大なものであるが、研修を通じて発信することで分かりやすさにつながると考えている。研修講座案内は予算の関係から学校に 1 冊程度である。Web ページには掲載されている。
- ・研修の振り返りは、今後はどこに発信されるのか。
(回答) 講座振り返りは公開することを前提としていない。
- ・希望研修が大切だという思いがある。先生方が自分の思いで選択し、この研修をしてよかったという事が大切である。また学びたいことがあるのも大切だが、1 日研修に来ることで元気になるという思いでセンターに来るという側面もある。今後も希望研修を大切に考えていただきたい。
- ・ミドルリーダーの育成に向けての研修を意図的にお願いしたい。
- ・このような研修を増やしてほしいという受講者の振り返りは、良い研修をやっていたという事だと思う。このような研修を実施いただけるとありがたいと思う。
- ・研修講座の時期が行事と重なっている場合があるので、研修講座の時期と内容を考えていただきたい。
- ・特別支援学校の校長会でも教員育成指標を大切に考えている。研修の中に 14 のスキルが位置付けられているのがよい。自校の職員のキャリアプランニングに関わっていくという思いもある。講座案内も精査しながら 14 のスキルを位置付けていただきたい。
- ・研修された先生が自分で講師を務めることで研修がさらに自分のものになっていくと思う。そのようなサポートすることが広がっていくとよい。
- ・単純な出前講座ではなく、学校が主体となって取り組む方向となっているのは素晴らしい。
- ・一人ひとりの先生方が、自分自身の課題や目標を持てるかどうかはこれから課題としてある。

○研修講座の振り返りにについて

- ・アンケートが記名式になっているが、言いにくい部分もあると思うので記名なしもありうるのではないか。センターとしての方針を聞かせていただきたい。
(回答) 記名いただくことで責任ある言葉を残して戴きたいという思いがある。また講座の振り返りにとっても役に立っている側面もある。一律記名でやってきているので、無記名のアンケートについては研究したい。
- ・研修講座のアンケートで「主体的・対話的で深い学び」を問うているのは、とてもよいと思う。先生方が体感することが実践につながっていく。今後も継続いただきたい。学校でも取り入れたい。

○大学連携について

- ・上越教育大学教職大学院連携講座の内容と受講者数多い理由を教えてください。
(回答) 上越教育大学教職大学院と共同研究の側面があり、センターへは無償で講師を派遣している。内容的にも充実している。信州大学は教職支援センターとの連携をはじめ教職大学院や教育学部との連携もあるので拡大していきたい。

- ・大学生が同時にセンターの研修講座を受講できるのであれば先生方にとっても有益となると思う。この先の連携事業についても検討いただければと思う。

○生活科と幼保小の連携について

- ・幼保小の連携を考えると生活科は非常に大切だと思うが、講座の受講者が少ないのはなぜか。
(回答)生活科の講座は現在3講座開講している。担当講座数の関係でこれ以上増やすのは難しい。ニーズも現在は外国語活動・道徳・プログラミング教育に関しては高く、生活科はそれに比べると関心が薄いと思われるが大切にしていきたい。
- ・学びの改革支援課に幼児教育支援センターが設置されるなど幼児教育の大切さが言われてきている。幼稚園、保育園でどのような姿で育っているかを小学校の先生方が学べる機会あればありがたい。

○教育情報の提供について

- ・メディアマナーやデジタル媒体の利用など難しい時代になってきている。危ないからダメではなく使っていかなければならないので、子どもには学校で教えてほしいし、親も認識していなければならないので生涯学習の一環として保護者も学べる講座をお願いしたい。
(回答)教員向けの研修講座に関しては開設をさせていただいている。ライブラリーの資料も充実させていきたい。生涯学習推進センターの講座は保護者も受講していただける。
- ・学びの広場の算数・数学のプリントのアクセスが増えていることはありがたい。ワードで作られているので学校の実態に合わせて直していけるのはよい。働き方改革の影響で市販のドリル等に頼る傾向があるが、センターでも大切にさせていただき、長野県の先生方の力で充実していく仕組みを作れたらよいのではないか。
- ・PTAの活動の際に、活動を計画するための情報が少ないと感じている。学校の先生方へどのような情報が提供されているのか知ることができれば、活動計画がより組みやすくなると思われるので、センター通信等の配信についてご検討いただきたい。
(回答)送信先については検討したい。

○その他の事業について

- ・高校生が学校にない教材で、のびのびと勉強している姿を見て感動した。
- ・学校の先生方が一生懸命研修を積まれて生徒の指導に当たっていただいているありがたさを感じた。
- ・総合教育センターが変化している姿を感じた。
- ・ネット授業をアップできるような研究を進めていただきたい。
- ・生徒実習がより仕事や社会と結びつくようカリキュラムをご検討いただきたい。